

JENESYS2015 派遣プログラム (インドネシア／高校生) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、インドネシアへ日本の高校生ら計 23 名が派遣され、日本の政治、社会、歴史、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、10月19日から10月28日までの9泊10日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加高校・人数

山梨県立甲府第一高等学校 23名（うち引率者2名）

3. 訪問国

インドネシア共和国

4. 日程

- | | |
|-----------|--|
| 10月19日（月） | 出発前オリエンテーション |
| 10月20日（火） | 羽田国際空港より出発、ジャカルタ着 |
| 10月21日（水） | 【ブリーフィング】在インドネシア日本国大使館
【ODAサイト視察】タンジュンプリオク港アクセス道路建設事業フェーズII |
| 10月22日（木） | 【学校交流①】ジャカルタ第81国立高等学校 |
| 10月23日（金） | 【学校交流②】ジャカルタ第78国立高等学校
【ホームステイ】ホストファミリー対面式・ホームステイ |
| 10月24日（土） | 【ホームステイ】 |
| 10月25日（日） | 【文化体験】テキスタイル博物館・パティック体験
【市内視察】ファタヒラ広場周辺 |
| 10月26日（月） | 【日系商業施設視察】イオンモール BSD CITY
ワークショップ（報告会準備） |
| 10月27日（火） | 成果報告会、歓送会、ジャカルタ発 |
| 10月28日（水） | 羽田国際空港到着 |

5. JENESYS2015 派遣プログラム記録写真 (派遣国：インドネシア／高校生)

	
<p>10/21 在インドネシア日本国大使館による日尼関係ブリーフィング</p>	<p>10/21 ODA サイト視察(タンジュンプリオク港アクセス道路建設事業フェーズ II)</p>
	
<p>10/22 学校交流① (ジャカルタ第 81 国立高等学校) J-Pop 実演</p>	<p>10/23 学校交流② (ジャカルタ第 78 国立高等学校) 日本の魅力発信</p>
	
<p>10/25 インドネシア文化体験(テキスタイル博物館)バティック体験</p>	<p>10/27 成果報告会 (アクションプラン発表)</p>

6. 参加者の感想

◆ 山梨県立甲府第一高等学校 高校生

予想以上に日本に興味を持ってきていて、日本の話題で会話ができる事に最も驚きました。そして、LINE 等の SNS で日本語メッセージをくれる人も多数いて、日本の影響力や興味の強さを実感しました。また、ホストファミリーも「あれは日系企業だよ！」と教えてくれたので、日系企業の認知度も高いと思いました。

帰国後はまず日本人に対して、インドネシアの人たちが日本に強い興味を持っていること、そして、インドネシアの文化・食事についても紹介していきたいと思います。加えて、日本の人たちがインドネシアに興味を持てるように、自分が特に面白いと感じた点を、友人に、そして SNS 上で伝えていきたいと思います。

◆ 山梨県立甲府第一高等学校 高校生

インドネシアで学んだ最大のことは、伝えたいという気持ちを持って人と接することが大切だということです。言葉での意思疎通が難しい時には、ジェスチャーと笑顔できちんと自分の考えを伝えることができ、相手も理解してくれました。インドネシアと日本の文化は大きく違うので、最初は不安を感じるかもしれません。しかし、そこで臆病にならずに、自分で伝えようと努力することが大切です。また、インドネシアで痛感したのは自分の恵まれた環境です。インドネシアでは、私達にとっては当たり前である「飲める水が蛇口から出る、食べ物が豊富にある、温水シャワーが出る」が、そうではないことに気付きました。インドネシアでは貧富の差が激しく、高層ビル群とスラム街が川を挟んで隣り合っていたりもすることに気付きました。日本に帰っても、自分の生活を当たり前だと思わずに、今世界で起こる諸問題に対して私たちに何ができるのか考えていきたいと思います。

◆ 山梨県立甲府第一高等学校 高校生

インドネシアで印象に残ったことは、ひどい交通渋滞です。道路の車線がなかったり、信号が少なかったりと整備されていないことが大きな原因ではないかと考えました。ODA の道路建設視察時に担当者が「日本の技術を持ってくるだけではダメで、その土地に合うように応用していかなければならない。」と話していましたが、その通りだと思いました。もう一つ印象に残ったことは、インドネシアの人々が私たちをととても優しく受け入れてくれたことです。言葉が通じない時もありましたが、笑顔やもてなしから、彼らが歓迎してくれていることがわかりました。インドネシアの人々のように日本人も、外国の人々に対して、笑顔やしぐさで歓迎の気持ちをもっと示した方が良いと思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容

<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>日本製品のクオリティーへの評価はとて高く、お店では Japan Quality というシールが貼られていることもあります。これは、日本の魅力の一つです。これからの課題は、価格を安くし、より多くの人に日本製品を手にとってもらえるようにすることです。</p>	 <p style="text-align: right;">SMAN81にて</p>
<p>日本の魅力：高品質の日本製品</p>	<p>インドネシアで気付いたこと：伝統を大事にする</p>
<p style="text-align: center;">貧富の差がある</p> 	<p style="text-align: center;">パティドセルプロジェクトについて</p> 
<p>インドネシアでの気付き：貧富の差</p>	<p>アクションプラン：パティドセル（パティック×ランドセル）プロジェクト</p>
<p style="text-align: center;">パティドセルプロジェクトについて</p>  <p>日本とインドネシアの友好の象徴</p>	<p style="text-align: center;">パティドセルプロジェクトについて</p> <p style="text-align: right;">発信方法</p> <p>1つめ Cara Pertama</p>  <p>SNSを使用</p>
<p>アクションプラン：パティドセル（パティック×ランドセル）プロジェクト</p>	<p>アクションプラン：SNSでパティドセル（パティック×ランドセル）を発信</p>